

# 第3期ロジスティクス環境会議 組織体制 (2009年2月4日時点)

参考資料1

議長: 三村 明夫 (新日本製鐵(株) 代表取締役会長)  
副議長: 岡部 正彦 (日本通運(株) 代表取締役会長)  
副議長: 鈴木 敏文 (株イトーヨーカ堂 代表取締役会長 CEO)

**ロジスティクス  
環境会議(本会議)**

メンバー: 97社

**企画運営委員会  
(16名)**

委員長: 杉山 武彦  
(一橋大学 学長)  
副委員長: 増井 忠幸  
(武蔵工業大学 環境情報学部 学部長)  
副委員長: 高橋 信直  
(新日本製鐵(株) 営業総括部 部長)  
副委員長: 牛込 達彦  
(日本通運(株) 環境・社会貢献部 部長)

**グリーン物流研究会  
(90名)**

幹事: 下村 博史 (株日本総合研究所 総合研究部門 上席主任研究員)  
副幹事: 鈴木 邦成 (文化ファッション大学院大学 ファッションビジネス研究科 准教授)  
副幹事: 黒坂 真一 (株ヤマタネ 情報本部 情報営業部 次長)

**包装の適正化推進委員会  
(26名)**

委員長: 増井 忠幸 (武蔵工業大学 環境情報学部 学部長)  
副委員長: 藤井 幸則 (オリンパス(株) 品質環境推進部 技術サポートグループ課長)  
副委員長: 麦田 耕治 (日本通運(株) 環境・社会貢献部 専任部長)

**グリーン物流推進のための  
取引条件検討委員会  
(50名)**

委員長: 山本 明弘 (株日通総合研究所 物流技術環境部長 兼 環境グループ担当部長)  
副委員長: 大山 茂夫 (第一貨物(株) CS・環境対策 担当部長)  
副委員長: 梅津 芳文 (バンダイロジパル(株) 環境推進室 マネージャー)  
副委員長: 小島 賢次 (リコーロジスティクス(株) 営業本部 審議役)

**グリーンロジスティクス  
チェックリスト調査WG**

幹事: 矢野 裕児 (流通経済大学 流通情報学部 教授)  
幹事: 菅田 勝 (リコーロジスティクス(株) クオリティー(KAIZEN)アドバイザー  
(株)ロジスティクス革新パートナーズ 代表取締役)



グリーン物流研究会 2008 年度開催実績一覧

日程	講演①	講演②	講演③
第 1 回 2008 年 5 月 21 日 (水)	オリエンテーション、年間企画説明、名刺交換会		<b>日経BP社</b> 「物流に求められる環境対応とは」
第 2 回 2008 年 6 月 18 日 (水)	<b>㈱アスア</b> 「エコドライブ活動によるCO <sub>2</sub> 削減と 人材育成 -経営者・管理者の考え方で成果は決まる-」	<b>新日石プラスト㈱</b> 「シートパレットによる物流効率化と 環境負荷低減」	<b>日本ビジネスロジスティクス㈱</b> 「グローバルロジスティクスに向けた 輸送品質の改善による環境負荷の低減 -サーバー製品の外装梱包損傷課題における取組-」
第 3 回 2008 年 7 月 16 日 (水)	<b>国土交通省</b> 「運輸部門における地球温暖化対策 について」	<b>㈱ユニー</b> 「循環型社会形成に向けたユニーの取組 -未来の子供達に美しい自然を残したい-」	<b>光英システム㈱</b> 「運輸分野における CO <sub>2</sub> 削減に向けた 自動配送計画システムと車載端末活用の実例」
第 4 回 2008 年 9 月 24 日 (水)	<b>拓殖大学</b> 「アメリカにおける物流改革最前線 -グリーン物流の視点から-」	<b>住金物産㈱</b> 「アパレル・サプライチェーンにおける 環境物流の将来像」	<b>NECロジスティクス㈱</b> 「NECロジスティクス㈱の環境活動の取組み -環境アニュアルレポートより-」
第 5 回 2008 年 10 月 23 日 (木)	<b>文化ファッション大学院大学</b> 「CO <sub>2</sub> 排出量取引に関する最新事情」	<b>明治乳業㈱</b> 「明治乳業グループのグリーン物流への取組み -エコドライブと輸送新技術への挑戦-」	<b>SBSホールディングス㈱</b> 「SBSグループにおける環境への取組み -デジタル導入によるグリーン物流の実現と運行管理体制の確立に向けて-」
第 6 回 2008 年 11 月 19 日 (水)	<b>・日本アイ・ビー・エム㈱/日本ビジネスロジスティクス㈱ 藤沢北事業所 3R工場の見学会</b>		
第 7 回 2008 年 12 月 3 日 (水)	<b>東京都</b> 「東京における地区物流効率化 認定制度について」 <b>武蔵野市役所</b> 「吉祥寺における荷捌き駐車対策」	<b>トランコム㈱</b> 「エコロジネットワークによる グリーン物流推進」	<b>環境省</b> 「循環型社会の形成に向けた環境省の取組み」
第 8 回 2009 年 1 月 21 日 (水)	<b>山九㈱</b> 「山九㈱のエコ・ビジネスと グリーン物流への取組み」	<b>㈱竹中工務店</b> 「建設会社における 物流施設環境負荷低減活動」	<b>東京大学・オリンパス㈱</b> 「パルプ射出成形 (PIM) の研究動向と 包装材への適用可能性」

\* 社名に四角囲み有…外部講師 (8 : うち行政 4)、無…メンバー発表 (1 2)

\* 網掛け…3Rを中心としたテーマ

## グリーン物流研究会 2008年度の開催実績

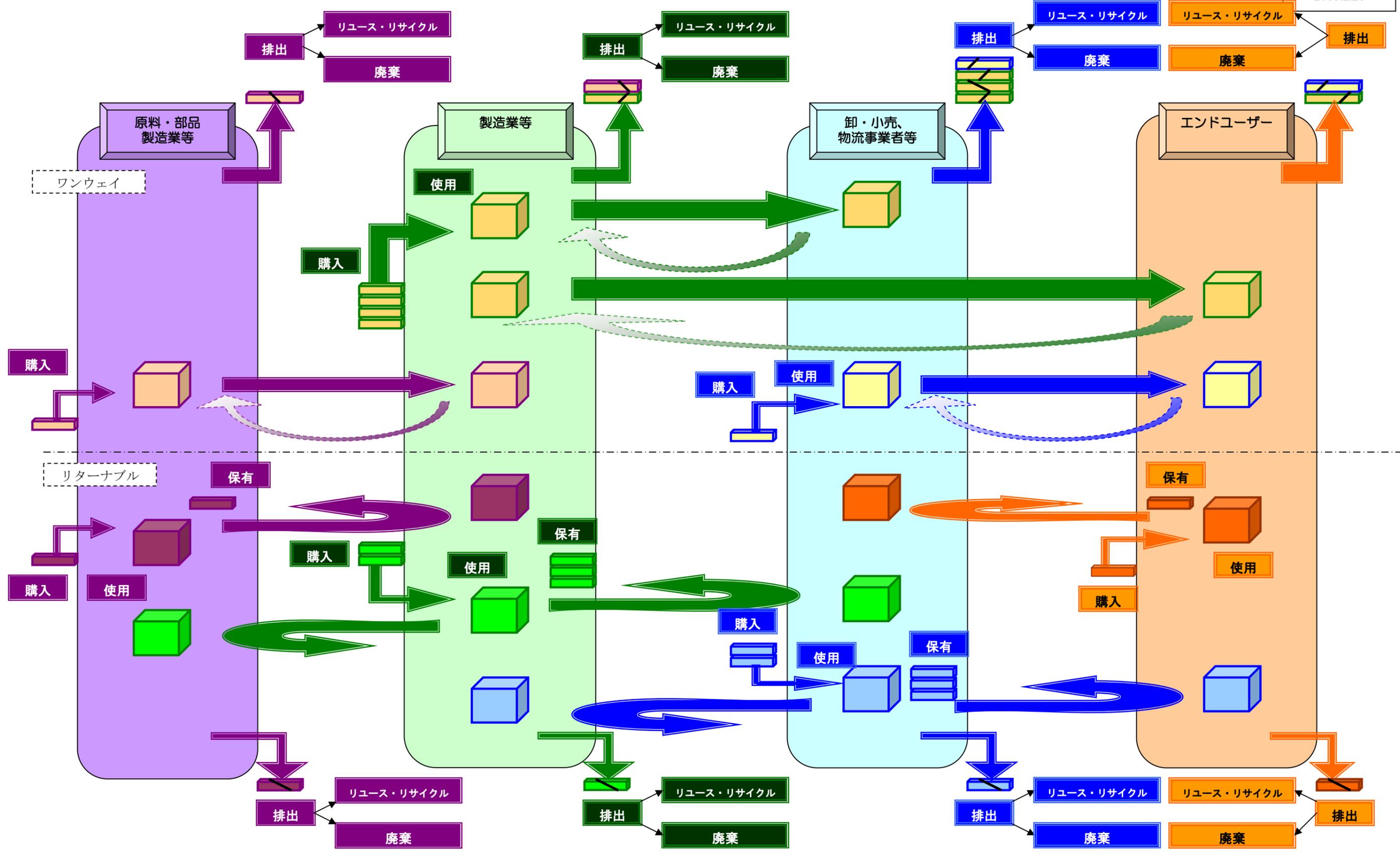
会合	開催日	内 容	参加 人数
第 1 回	2008年 5月21日 (水)	<b>オリエンテーション、名刺交換会</b> <b>講演1</b> 「物流に求められる環境対応とは」 斎藤 正一 氏(日経BP社 日経エコロジー編集部 副編集長)	72名
第 2 回	2008年 6月18日 (水)	<b>講演1</b> 「エコドライブ活動によるCO <sub>2</sub> 削減と人材育成ー経営者・管理者の考え方で成果は決まるー」 間地 寛 氏(㈱アスア 代表取締役) <b>講演2</b> 「シートパレットによる物流の効率化ー効率的な物流でコスト・環境負荷を低減ー」 杉田 由喜雄 氏(新日石プラスト㈱ 物流資材営業本部 副本部長) <b>講演3</b> 「グローバルロジスティクス環境下での輸送品質の改善による環境負荷の低減 ーサーバー製品の外装梱包損傷課題における取組ー」 石井 勇太 氏(日本ビジネスロジスティクス㈱ 物流技術部長)	60名
第 3 回	2008年 7月16日 (水)	<b>講演1</b> 「運輸部門における地球温暖化対策について」 藤本 敏文 氏(国土交通省 総合政策局 環境政策課 企画官) <b>講演2</b> 「循環型社会形成に向けたユニーの取組ー未来の子供達に美しい自然を残したいー」 百瀬 則子 氏(ユニー㈱ 業務本部 環境社会貢献部長) <b>講演3</b> 「運輸分野におけるCO <sub>2</sub> 削減に向けた自動配送計画システムと車載端末活用の実例」 葦津 嘉雄 氏(光英システム㈱ 代表取締役)	70名
第 4 回	2008年 9月24日 (水)	<b>講演1</b> 「アメリカにおける物流改革最前線ーグリーン物流の視点からー」 芦田 誠 氏(拓殖大学 商学部 国際ビジネス学科 教授) <b>講演2</b> 「アパレル・サプライチェーンにおける環境物流の将来像 ー平成18年度グリーン物流パートナーシップ推進事業 モデル事業の報告からー」 山内 秀樹 氏(住金物産㈱ 繊維カンパニー SCM・事業開発部 部長) <b>講演3</b> 「NECロジスティクス㈱の環境活動の取組みー環境アニュアルレポートよりー」 長田 彰 氏(NECロジスティクス㈱ CS推進部 環境管理室長)	53名
第 5 回	2008年 10月23日 (木)	<b>講演1</b> 「CO <sub>2</sub> 排出量取引の最新事情」 鈴木 邦成 氏(文化ファッション大学院大学 ファッションビジネス研究科 准教授) <b>講演2</b> 「明治乳業グループのグリーン物流への取組みーエコドライブと輸送新技術への挑戦ー」 桜井 保 氏(明治乳業㈱ 物流部 係長) <b>講演3</b> 「SBSグループにおける環境運営への取組み ーデジタコ導入によるグリーン物流の実現と運行管理体制の確立に向けてー」 雨宮 路男 氏(SBSホールディングス㈱ 執行役員 改善統括部 部長)	55名
第 6 回	2008年 11月19日 (水)	<b>見学会</b> 日本アイ・ビー・エム㈱/日本ビジネスロジスティクス㈱ 藤沢北事業所 3R工場の見学会	42名
第 7 回	2008年 12月3日 (水)	<b>講演1-1</b> 「東京における地区物流効率化認定制度について」 安東 季之 氏(東京都 都市整備局 都市基盤部 副参事(物流調査担当)) <b>講演1-2</b> 「吉祥寺における荷捌き駐車対策」 川越 岳夫 氏(武蔵野市役所 都市整備部 吉祥寺まちづくり事務所 主査) <b>講演2</b> 「エコロジネットワークによるグリーン物流推進」 武部 篤紀 氏(トランコム㈱ 経営企画グループ 主幹) <b>講演3</b> 「循環型社会の形成に向けた環境省の取組」 大森 恵子 氏(環境省 大臣官房 廃棄物・リサイクル対策部 企画課 循環型社会推進室 室長)	55名

会合	開催日	内 容	参加 人数
第 8 回	2009年 1月21日 (水)	<p><b>講演1</b>「山九㈱のエコ・ビジネスとグリーン物流への取組み」 飯田 隆 氏 (山九㈱ ロジスティクス・ソリューション事業本部 エコ・ビジネス推進班 エコ・ビジネス推進グループ グループマネージャー)</p> <p><b>講演2</b>「建設会社における物流施設環境負荷低減活動」 大久保 高明 氏 (㈱竹中工務店 エンジニアリング本部 課長代理)</p> <p><b>講演3</b>「バルブ射出成形(PIM)の研究動向と包装材への適用可能性」 横井 秀俊 氏 (東京大学 生産技術研究所 教授) 新田 和男 氏 (オリンパス㈱ 生産技術本部 コアプロセス技術部 成形技術グループ グループリーダー)</p> <p><b>2008年度のみまとめ</b></p>	51名

\*役職等は開催時点のものである。

サプライチェーンにおける包装材の流れのイメージ図（修正素案）（第4回包装の適性化推進委員会 修正事項未反映）

参考資料2-2  
2009.2.26



時間指定の分類・整理表（修正素案）

No	分類		配送 継続性	配送 頻度	納品時間	着側の制約			荷降ろし 待ち時間	後工程	委員会での意見、 及び時間指定アンケートでの記載等	備考	
	大分類	小分類				入荷待機等 敷地面積	保管 スペース	他の 入荷車輛					
1	原料・部材メーカー →メーカー（工場等）		継続的	中	生産計画に あわせた指 定？	◎	◎	○～△		生産	・メーカーの指定倉庫納品の際は、厳しい時間指定 ・工場のラインまで納品させられるケース有 ・重量物、主要部材で大量納入の際は指定		
2	メーカー（工場、センター） →卸・小売センター  （卸センター →卸・小売センター）	卸・小売センター が大規模	継続的	多	午前指定	○	○ （DCの 場合）	△～×		午後出荷作業	・AM時間指定が多い ・30分の範囲での指定が多い ・指定時間遅れの場合は荷受拒否有		
		卸・小売センター が小規模 （業務用卸等）	継続的	中	午前指定	△～×	×	△		午後出荷作業	・保管スペースが狭いところほど、厳しい時間指定 を受ける。		
3	卸・小売センター →小売店舗	小 売 店 舗 分 類	スーパー等	継続的	多	①開店前、② 午前中、③午 後の3回	△	△～×	○～△		店頭への 品出し作業	・納品車輛台数は1日50台ほど有	
		コンビニエ ンストア等	継続的	多	〇時指定	△～×	×	◎		店頭への 品出し作業	・1日1店舗あたり平均9台		
		パパママ ストア等	継続的	少	指定 なし？	×	×	◎		店頭への 品出し作業			
4	据付・設置		1回のみ		〇時指定	△～×	なし	◎	なし	据付に係る 作業	・納品時に営業マンが立ち会うため時間指定は必須 ・納品時間は営業マンが顧客と調整	→配送スケジュール事前 予約制に変更し、配送効率 を改善。ただし、物量が少 なくなると非効率を招く 部分も有。	
5	建設現場		1回のみ /期間集中	不定	〇時指定	△～×	なし	○～△		建設現場作 業	・時間指定が厳しい ・受取人が不明		
6	B to C		1回のみ		〇時～〇時	×	なし	◎	なし	なし	・荷降ろし待ち時間よりも不在時の持ち戻りが課題	→エコポイント	

【凡例】

	敷地面積	保管スペース	他社の車輛
◎	↑ 広い	↑ 広い	↑ 少ない
○	↑	↑	↑
△	↓	↓	↓
×	↓ 狭い	↓ 狭い	↓ 多い

【その他】

- ・業種や納品先にかかわらず、顧客ごとに異なる
- ・グラフィック関係の印刷屋では〇時指定。また、当日受注、当日納品
- ・銀行は午後3時以降

## 第3期ロジスティクス環境会議 2008年度の活動経過

### 1. 企画運営委員会

#### 1) 第1回企画運営委員会

日時：2008年6月26日(木) 15:00-17:05

会場：浜松町東京會館

議事：①環境会議のこれまでの取り組みと第3期の活動イメージについて  
②組織体制について  
③研究会、委員会、ワーキング等について  
④グリーンロジスティクス推進週間/月間（仮称）について  
⑤2008年度スケジュールについて  
⑥第1回本会議について

#### 2) 第2回企画運営委員会

日時：2008年11月20日(木) 15:00-16:40

会場：芝パークホテル

議事：①研究会、委員会の2006年度活動内容について  
②調査関係の活動について  
③広報・普及活動について

#### 3) 第3回企画運営委員会（予定）

日時：2009年2月26日(木) 10:00-12:00

会場：(社)日本ロジスティクスシステム協会

議事：①研究会、委員会の2008年度活動内容、及び2009年度活動計画（案）について  
②調査関係の活動について  
③鉄道へのモーダルシフト促進に関する要望について  
④情報提供活動について  
⑤第2回本会議について

### 2. グリーン物流研究会（計8回）

#### 1) 第1回グリーン物流研究会

日時：2008年5月21日(水) 14:00-17:00

会場：中央大学駿河台記念館

#### 2) 第2回グリーン物流研究会

日時：2008年6月18日(水) 14:00-17:00

会場：中央大学駿河台記念館

#### 3) 第3回グリーン物流研究会

日時：2008年7月16日(水) 14:00-17:00

会場：中央大学駿河台記念館

#### 4) 第4回グリーン物流研究会

日時：2008年9月24日(水) 14:00-17:00

会場：中央大学駿河台記念館

- 5) 第5回グリーン物流研究会  
日時：2008年10月23日(木) 14:00-17:00  
会場：中央大学駿河台記念館
- 6) 第6回グリーン物流研究会（見学会）  
日時：2008年11月19日(水) 14:00-17:00  
会場：日本アイ・ビー・エム(株)/日本ビジネスロジスティクス(株) 藤沢北事業所
- 7) 第7回グリーン物流研究会  
日時：2008年12月3日(水) 14:00-17:00  
会場：中央大学駿河台記念館
- 8) 第8回グリーン物流研究会  
日時：2009年1月21日(水) 14:00-17:00  
会場：中央大学駿河台記念館

### **3. 包装の適正化推進委員会（計4回）**

- 1) 第1回包装の適正化推進委員会  
日時：2008年9月26日(金) 15:00-17:00  
会場：(社) 日本ロジスティクスシステム協会
- 2) 第2回包装の適正化推進委員会  
日時：2008年11月6日(木) 15:00-17:00  
会場：(社) 日本ロジスティクスシステム協会
- 3) 第3回包装の適正化推進委員会  
日時：2009年1月15日(木) 15:00-17:05  
会場：中央大学駿河台記念館
- 4) 第4回包装の適正化推進委員会  
日時：2009年2月19日(木) 10:00-12:15  
会場：中央大学駿河台記念館

### **4. グリーン物流推進のための取引条件検討委員会（計4回）**

- 1) 第1回グリーン物流推進のための取引条件検討委員会  
日時：2008年10月2日(木) 15:00-16:45  
会場：中央大学駿河台記念館
- 2) 第2回グリーン物流推進のための取引条件検討委員会  
日時：2008年11月14日(金) 15:00-17:00  
会場：くるまプラザ
- 3) 第3回グリーン物流推進のための取引条件検討委員会  
日時：2009年1月19日(月) 15:00-16:55  
会場：中央大学駿河台記念館

- 4) 第4回グリーン物流推進のための取引条件検討委員会  
日時：2009年2月20日(金) 15:00-16:50  
会場：くるまプラザ

**5. グリーンロジスティクスチェックリスト調査WG (計2回)**

- 1) 第1回グリーンロジスティクスチェックリスト調査WG  
日時：2008年12月11日(木) 17:30-19:50  
会場：(社) 日本ロジスティクスシステム協会
- 2) 第2回グリーンロジスティクスチェックリスト調査WG  
日時：2009年2月2日(金) 10:30-12:15  
会場：(社) 日本ロジスティクスシステム協会

以 上

# CGL活動のイメージ図

(目的)持続可能社会の実現に向けたロジスティクスの構築

ロジスティクス分野における環境負荷低減活動に

- ・取り組む企業を増やす
- ・(既に実施済の企業の)取り組みを拡大させる

【研究会、委員会、WG活動】

<推進にあたっての阻害要因等に対する  
解決案の検討>

【第2期】

- ①省エネ法
- ②鉄道へのモーダルシフト
- ③取引条件での「共同化」

【第3期】

<取組の参考となるツール等の作成>

【第2期】

- ①グリーンロジスティクスチェックリスト
- ②エコドライブ推進ガイド
- ③グリーン物流研究会による施策研究
- ④グリーンロジスティクスガイド

【第3期】

- ①グリーン物流研究会による施策研究
- ②チェックリスト診断

包装材、取引条件(時間指定)

発荷主、着荷主、物流事業者等の連携  
人的ネットワーク構築促進

第1期:2003年11月～2006年3月

環境負荷低減活動に「取り組む企業」を増やすための基盤整備活動の展開

＜主な成果物＞

- ・二酸化炭素排出量算定ガイド
- ・モーダルシフト推進チェックリスト/資料集
- ・省資源ロジスティクス事例集
- ・取引条件の見直しによる物流の環境負荷低減効果に関する調査報告書
- ・リバーズロジスティクス調査報告書
- ・企業の環境報告書における物流に関する記載内容実態調査 他
- ・省エネ法判断基準への意見・要望書提出
- ・「ロジスティクス環境宣言」の採択
- ・グリーン物流P会議との連携

第2期:2006年8月～2008年3月

物流分野におけるCO<sub>2</sub>削減をテーマとし、環境宣言実現に向けた取り組みを展開

＜主な成果物＞

- ・グリーンロジスティクスガイド
- ・鉄道へのモーダルシフト実施/拡大のためにクリアしなければならない課題と対応事例
- ・エコドライブ推進ガイド
- ・取引条件を考慮した環境負荷低減施策に関する提案
- ・グリーンロジスティクスチェックリスト
- ・改正省エネ法への意見・要望書提出
- ・鉄道へのモーダルシフト促進のための要望書提出
- ・グリーン物流P会議との連携

第3期:2008年5月～2010年3月

持続可能社会実現に向けた取組の展開

＜検討テーマの例＞

- ・包装の適正化による環境負荷低減推進
- ・環境負荷と経済効率を考慮した取引条件のあり方の検討
- ・改善施策の研究
- ・省エネ法の定期報告書等の集計
- ・グラントデザインの改訂 等

取り組む企業を増やす活動の推進

＜第1、2期成果物等の普及＞

- ・グリーンロジスティクスチェックリスト調査を通じた啓発活動
- ・グリーンロジスティクスガイド等の第1、2期成果物の普及
- ・グリーン物流P会議との連携
- ・その他

【企業メンバーの意向】

＜環境対応に関する誤解＞  
 ・コストアップ要因との誤解  
 ・物流事業者だけで取り組むべきこととの誤解

＜取り組むためのツール等の不足＞

- ・CO<sub>2</sub>等の環境パフォーマンス算定方法
- ・環境負荷低減施策に関する情報不足

【外部環境】

＜京都議定書の発効＞

＜行政施策等の推進＞

- ・総合物流施策大綱(2005-2009)の閣議決定
- ・改正省エネ法の施行
- ・グリーン物流P会議の発足
- ・物流総合効率化法の施行

【企業メンバーの意向】

＜省エネ法対応方策等に関するニーズ＞

- ・エネルギー使用量算定方法
- ・省エネ計画の策定
- ・削減施策推進に向けた異業種メンバーとの検討

【外部環境】

＜21世紀環境立国戦略＞

- ・持続可能な社会に向けた取組

＜京都議定書国際公約達成に向けて＞

- ・京都議定書目標達成計画の改定

【企業メンバーの意向及び外部環境】

＜環境意識の高まり＞

- ・京都議定書第1約束期間の開始
- ・G8北海道洞爺湖サミット

＜原油、各種資源、食糧等高騰＞

- ・コストダウン(コストアップの抑制)に向けて、限りある資源を有効に使うための他部門、他社との連携のさらなる推進

## 第3期ロジスティクス環境会議 第2回企画運営委員会 議事録

I. 日 時：2008年11月20日（木） 15：00～16：40

II. 場 所：東京・港区 芝パークホテル 別館2F アイリス

III. 出席者：16名（別紙参照）

### IV. 内 容：

- 1) 研究会、委員会の活動内容について
  - (1) グリーン物流研究会
  - (2) 包装の適正化推進委員会
  - (3) グリーン物流推進のための取引条件検討委員会
- 2) 調査関係の活動について
  - (1) グリーンロジスティクスチェックリスト調査
  - (2) 省エネ法実態調査
- 3) 広報・普及活動について

### V. 開 会

事務局の徳田専務理事より開会が宣された後、杉山委員長の司会のもと、以下のとおり議事が進められた。

### VI. 報 告

#### 1) 第1回本会議報告

事務局より、資料1-1に基づき、第1回本会議の報告がなされた。

#### 2) 組織体制、及び参加企業について

事務局より、資料1-2に基づき、組織体制についての報告がなされた後、資料1-3に基づき、11月20日時点での登録メンバー企業数についての報告がなされた。

### VII. 議 事

#### 1) 研究会、委員会の活動内容について

##### (1) グリーン物流研究会

事務局より、資料2-1、参考資料2-1に基づき、グリーン物流研究会の2008年度活動内容について説明が行われた後、同研究会の幹事である下村委員より、①今年度についてもメンバー等の御協力いただきながら活動を進めている、②10月度に「CO<sub>2</sub>排出量取引」をテーマに取り上げたところ、参加者との活発な質疑応答が行われ、関心の高さが伺えた、③見学会はたいへん有意義であることから、次年度も続けていきたい旨の説明がなされ、了承された。

##### (2) 包装の適正化推進委員会

事務局より、資料2-1に基づき、包装の適正化推進委員会の2008年度活動内容について説明が行われた後、同委員会の委員長である増井副委員長より、①包装に関わる環境パフォーマンス算定にあたっての基となるデータも捉えられていない現状にある、②投入量と排出量で考え方が異なっており整理が必要である、③評価する指標としてCO<sub>2</sub>だけでいいのかといった意見もあり検討が必要である、④2年かけて指針が策定できればと考えている、との説明がなされた。続いて、同委員会の副委員長である麦田委員より、荷主と物流事業者でも包装についての捉え方が異なっており、方向性を見出すことは容易ではないと考えている旨の説明がなされ、以下の意見

交換の後、了承がなされた。

## 【主な意見】

### (全般的な事項)

委員：カーボンフットプリントを実施する上で、包装に係るCO<sub>2</sub>排出量の算定は必須となるが、現状では、算定式すら示されていない。この委員会で指針を作成いただくとともに、その内容を産業界や行政等にインパクトがある形で示していただきたい。

委員：メーカー等で製品の個装の包装材を削減した結果、養生に係る包装材を輸送事業者側で増やさなければいけないといったこともあるので、トータルな視点での検討を行っていただきたい。

事務局：当初の委員会名称案は「包装材の削減」であったが、ご指摘いただいたような意見が出たことから「包装の適性化」という名称になった経緯がある。したがってそのような視点の重要性は認識している。

委員長：“OUTPUT”は、一般的に産出物等を指す言葉なので、語句の使い方に少し違和感を覚えた。

### (リターナブルに係る事項)

委員長：リターナブルの包装材を使用するケースが増えているのか教えていただきたい。

副委員長：増えてきている。したがって、委員の関心も高いが、環境パフォーマンスとの関連では、使用回数のカウント方法をどのようにするかといった課題がある。さらに、例えば「プラスチックを用いたリターナブルの包装材」と「木材を用いたワンウェイの包装材」のどちらの環境負荷が少ないのかといった難しい検討課題もある。

委員：リターナブルの容器を使用しても、サイズ等の規格がバラバラだと回収等の際の効率が悪化してしまうことから、規格の標準化が必要だと考える。また、物量が減ると容器そのものが滞留してしまうことも課題の1つである。

事務局：例えば「年間投入量」といったような時間概念の導入が必要ではないかと考えている。

副委員長：ワンウェイとリターナブルを比較する際の基準そのものがないので、当委員会で検討したい。

## (3) グリーン物流推進のための取引条件検討委員会

事務局より、資料2-1に基づき、グリーン物流推進のための取引条件検討委員会の2008年度活動内容について説明が行われた後、同委員会の委員長である山本委員より、①アンケートの結果により、発荷主、着荷主、物流事業者で「時間指定」に関する考え方や目的が異なっていることが浮き彫りになるとともに、お互いがそれらを認識できたことは意義深かった、②今後は時間指定の緩和等により環境負荷等がどれほど改善するのかといったことを定量的なデータに基づき示したい旨の説明がなされた後、以下の意見交換が行われ、了承がなされた。

## 【主な意見】

### (時間指定について)

委員長：時間指定というのはどのくらい遵守されているのか教えていただきたい。

委員：定量的に捉えているデータはないが、委員会において、「午前8時に到着して、夕方17時まで待たされた」といった意見もあった。このようなケースではどこまで必要性がある時間指定が行われているか疑問である。逆に、指定された時間ですぐに荷降ろしができれば輸送効率も上がり、その結果CO<sub>2</sub>及び運賃も下がるといったような良いスパイラルになると考える。

委員：午前中指定という緩やかな指定であるにもかかわらず、朝8時にトラックが殺到して待ち時間が発生しているケースもある。したがって、適切な時間指定が必要だと考える。

副委員長：あるメーカーで「リードタイムを長くするとCO<sub>2</sub>排出量がこれだけ下がります」と示したところ、4割ぐらいの顧客が長いリードタイムを選択したという話を耳にしたことがある。したがって、インセンティブの与え方についても調査してはどうかと考える。

委員：ある販社では、配送先の8割近くで時間指定があったが、当社から「時間指定をしないと運送費をこれだけ安くする」と示したところ、納品時間を指定する率が減少し、結果として輸送効率が向上している。その結果、おそらく3～4割ほどCO<sub>2</sub>排出量が減少しているのではないかと個人的に考える。これらのデータは提供できるのではないかと考える。

委員：時間指定の結果、トラックの待ち時間の削減につながるかがポイントだと考える。そのためには、施設の処理能力とトラック台数等を勘案して納品時間を指定する必要がある。さらに、時間指定の有無によってコスト、環境負荷がどのようになるのか数値的に示すことができれば、荷主側においても時間指定を行うかどうかの検討材料になると考える。

委員：「良い時間指定」と「悪い時間指定」があり、分けて議論すべきと考える。

(その他)

委員：第2期環境会議で取りまとめた「中継物流の共同化」については、現在、グリーン物流パートナーシップ ソフト支援事業において実証を行っている。具体的には食品メーカー10社のある月の実データを用いて、共同化によってどれぐらいCO<sub>2</sub>排出量が減少するか検証している。

## 2) 調査関係の活動について

### (1) グリーンロジスティクスチェックリスト調査

事務局より、資料2-2に基づき、グリーンロジスティクスチェックリスト調査に係る活動について報告がなされ、了承された。

### (2) 省エネ法実態調査

事務局より、資料2-2に基づき、省エネ法実態調査に係る活動について報告がなされ、以下の意見交換の後、了承された。

#### 【主な意見】

委員：速報版だけでは少し分かりにくいので、何らかのコメントがあった方がよいと考える。

事務局：ご指摘のとおりである。現在、CGLジャーナルとして「分かりやすさ」を重視した概要版の制作を行っている。

## 3) 広報・普及活動について

事務局より、資料3、参考資料1-1に基づき、広報・普及活動に関する検討事項について説明がなされた。主な意見は以下のとおりである。

#### 【主な意見】

(全体を通して)

委員：「なぜ広報・普及をするのか」といったところがよく分からない。

事務局：資料3の3. 1)にあるとおり、広報・普及の目的は複数考えられる。さらに、グリーン物流パートナーシップ会議での広報戦略検討の動向も踏まえて、本日も意見をいただきたいと考える。

(環境会議としての広報・普及の考え方について)

副委員長：グリーン物流パートナーシップ会議は普及啓発活動が中心であるが、一方の環境会議は、意欲を持った人が集まり、ツールの開発を行ったり、産業界でのコンセンサスを得て、それらを行政に働きかける場だと考えている。したがって、グリーン物流パートナーシップ会議の広報とは一線を画し、環境会議で策定したものを普及し、活用いただくことで、環境宣言にある「仲間を増やす」といった活動をすすめていくことが重要だと考える。

委員：環境会議は物流の専門家集団によって新しい考え方や手法を検討する場だと考えている。したがって、環境会議で策定したものをグリーン物流パートナーシップ会議に提案していく、逆にグリーン物流パートナーシップ会議から相談があれば、積極的に協力するといったスタンスでよいのではないかと。

副委員長：JILSは、グリーン物流パートナーシップ会議の事務局も務めていることから、グリ

ーン物流パートナーシップ会議の場をうまく活用することもできるのではないかと考える。

委員：環境宣言に「取り組む企業を増やす」とあるが、それを定量的に把握することはたいへん困難だと考える。もちろん、環境会議のメンバー企業数は一つの尺度になるが、委員会等の活動に注力しながら、一方でメンバー数を増やす活動は個人的には困難ではないかと考える。したがって、環境会議の使命としては、開発したツールをグリーン物流パートナーシップ会議等に提案していくことで、結果として取り組む企業を増やすための環境を作っていくことではないかと考える。

委員：景気も悪くなっている中で、105,000円という年会費を払える企業はそれほど多くない。さらに自分の仕事の時間を割いて委員会に参加することも困難である。したがって、環境会議としては委員会等で真剣な検討を行い、その成果をグリーン物流パートナーシップ会議の場を使って普及していくという進め方でよいのではないかと考える。

委員：環境会議で革新的な検討を行い、その結果、このような成果が出て、多くの企業でも有効であるといったことを広報することで、取り組む企業数も増えていくと考える。例えば、先ほど報告があった「省エネ法実態調査結果」についても、「単に数値がこうだった」ということではなく、「環境会議でこれだけ削減できた」といったことをもっとアピールする必要があるのではないかと考える。

事務局：ご指摘のとおりである。なお、省エネ法については、CO<sub>2</sub>排出量総量が増えてしまったため、今回はそのようなアピールができなかった経緯がある。

(会員・広報委員会による検討について)

副委員長：J I L Sという組織全体で考えると、広報を検討する組織として「会員・広報委員会」がある。したがって、その委員会の場で環境会議を含めたJ I L S全体の活動をどのように広報すべきかといった検討をすべきであり、当委員会で広報を議論することは疑問である。

事務局：ご指摘いただいたとおり、「会員・広報委員会」において、J I L S全体の広報や情報発信についてご議論いただいている。また、機関誌等を用いて、環境会議の成果を発表していくことが可能である。

#### 【決定事項】

- ・ 環境会議として広報を検討する組織等は設けず、J I L Sの全体の広報を担っている「会員・広報委員会」で環境会議の広報についても検討いただく。
- ・ ただし、環境会議の活動を進める上で独自でPRしたい事項等があれば、適宜実施することとする。

#### 4) その他

##### (1) 鉄道へのモーダルシフト促進に関する意見・要望について

事務局より、資料4-1に基づき、第2期環境会議で取りまとめた「鉄道へのモーダルシフト促進に関する意見・要望」についての活動結果（JR貨物には要望書を提出せずに、国土交通省の関係部局に提出する）について報告がなされた後、高松委員より、①今回の結果はたいへん残念である、②国土交通省側は意見・要望について前向きに捉えている旨の説明がなされ了承された。

##### (2) スケジュールについて

事務局より、資料5に基づき、2008年度のスケジュール（案）の説明がなされ、了承された。

#### VIII. 閉会

以上をもって全ての議事を終了し、杉山委員長は閉会を宣した。

以上